

# 五感を使い 全身で学ぶ アウトドア教育に見る可能性

## 体験会 & 講演会

子どもの体力や主体性を高める取り組みが求められている教育現場では、創造性やコミュニケーション能力の育成、アクティブラーニングの在り方が大きな課題となっている。そうした現状を踏まえ、シェパンスキー先生講演会実行委員会は、3月29日にアウトドア教育の体験会と講演会を開催。スウェーデンにおけるアウトドア教育の第一人者アンデシユ・シェパンスキー氏を迎え、生きる知恵と体力を育む豊かな教育の在り方を探った。

### 集中力とチームワーク

体験会が開かれたの たら交代する。は、(学)リズム学園 ○2列になり、後ろから恵庭幼稚園が週一回森 交互に人を通り抜ける活動を行っている「北 ながら前まで競争するへ清の森」シェパンスキー ビゲーム。

1氏は、約30人の参加者 ○自然の中から素材を探し、「学童保育ON E S してゐる。」「生き物」をTEPに導く小学生、 テーマに、シートの上でその保護者らとともに六 作品を作る。(ペア) つのワークを行った。

○のこぎりで雪の塊を丸 ○みんなで輪になり地球 ・三角・四角に掘り出し、に見立てたボールを回し 飾りつけをして作品を展 ていく。「世界一周」と 示す。(ペア)

言われたらその周りを走 ○ロープを使って北海道 の地図を作り、各自出身 の地図を作り、各自出身 の地図の上に立つ。

○ペアになり、一人が目 地の上立つ。 これらは言語や算数、 をつむってカメラ役に。 これらは言語や算数、 カメラマンが被写体の前 デザイン、形態などを学 まで連れて行き、3枚撮 るワークで、どれも集中

### 成功のポイント

は、雪を使った作業をす ことが伝えられた。 は、雪を使った作業をす ことが伝えられた。 は、雪を使った作業をす ことが伝えられた。

講演会では、北欧を拠 必要があるため、社会性 点に活動する川崎一彦氏 を発達させる効果もある (東海大学名誉教授) が という。

通訳を務め、アウトドア 今回で15回目の来日を 教育の意義や展開などに 果たし、いくつかの幼稚園 や保育園を視察したシ ョンズキー氏は、「子 供がクリエイティブにな るように考えた環境づく りに非常に感銘を受け た。日本にもアウトドア 教育のニーズがあると確 信している。大学の教員 養成課程に組み込まれる ことが大切」と語り、ま た、「通常の座学での学 びは聴覚と視覚だけで すが、アウトドアは体験し ための要因は四つ。① 五感全てで学ぶことが根 幹。体験を一般化し、実 践に活用するというサイ クルになる。何を学び、 何を将来に活用できるか と考える機会にしてほし い」と訴えた。

### なぜ、いま 子どもの遊びが 必要なのか



対談するシェパンスキー氏(中央)と井内氏(左)、通訳の川崎氏(右)

平町に開園 する全国初 の公私連携 幼保連携型 認定こども 園「(学) リズム学園 はやきた子 ども園」を 紹介し、「モデル ケースとして 何をす 何をする か、子ども が育つたため にどのよう な環境を作 っているのか、非常に可 能性を見いだしている」と期待を込めた。

札幌市の会場には、定 員の1.5倍の1500人 が詰めかけ、活発な意見 交換も行われた。

確かな学力と豊かな人 間性、健康と体力、生き る力を養う包括的な考え 方を有するアウトドア教 育への関心は高く、今後 ますますの広がりが見込 まれる。

徐々にボールの数を増やしていく 世界一周ゲーム



力とチーム ストレスを 感じる。 ワークが大 切になる。 学びに直接 とくに、脳 影響が出て くる。だが、 作業を好む 緑や青の中 には、自分 でのストレス 低くなるた め健康にも 倍増する。 年間降雪量 良く、幸福 度も高まる が80cmのス トックホル ムに対して 5mにもな た、チーム で活動する 森の中の素材を持ち寄りアート製作



独自の教育スタイルをと っている。 園の庭には、遊具だけ ではなく田畑やヒザ藁など があり、夏には庭に大き なプールを作って本気の 水遊び。豚や鶏も放し飼 った『学びに向かう力』 いにしている。園庭以外 を就学前にしっかりと身 に付ければ話して、 「子どもたちにはこれと ことを伝え、できるように なって何をするかは自分 次第という教育が、これ から必要になる」と語っ た。

また、今年4月から安